

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 22 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	出口 弘
研究課題	生産における投入産出関係のサプライチェーン上での利活用の研究				
研究キーワード	代数的実物簿記(代数的多元簿記)、ESG、生産会計、サプライチェーン	当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	12.つくる責任 つかう責任	13.気候変動に具体的な対策を	

1. 研究成果の概要

本研究では、一昨年行った「代数的実物簿記を用いたトランザクションデータの記録・計算・サービス利活用の研究」及び昨年の「実物簿記による実物複式活動時点データ(Point Of Event: Data)の利活用の研究」の延長で、財やサービスの生産に伴う投入産出関係について、そのサプライチェーンなど広義の取引の連鎖(トランザクションチェーン)上での扱いについて研究を行った。また地球温暖化ガスのスコップ1、2、3での評価、排出権市場での排出権のやりとりと実際の温暖化ガス排出のバズとしての環境への排出の扱い、さらに地球温暖化ガスの排出やバズの処理を生産会計における投入産出仕訳という概念を用いて明示化することに成功した。これらの成果は、2024年2月に刊行された拙著『会計システム理論』の中で詳細に展開された。

2. 著書・論文・学会発表等(査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文(査読あり)】

(1) 査読付き学会誌論文 佐野智紀、山村雅幸、出口弘、中小企業食品製造におけるIoT活用に見る生産性向上の研究 ~OODA ループを用いた実証研究をもとに~, 経営情報学会誌、Vol. 32 No. 3, December 2023, pp. 1-18

(2) 査読付き国際学会発表 「Hiroshi Deguchi, Production Accounting & Realtime Economy (RTE), PAPAIOS - ICES 2023 7th International Conference on Economic Structures」、2023年3月

【著書・論文(査読なし)】

出口弘、『会計システム理論』白桃書房、2024年2月

3. 主な経費

学会発表、関連書籍の購入や文具代に使用した

4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等)

【科研費】基盤研究C

代数的実物簿記を用いたトランザクションデータの記録・計算・サービス利活用の研究

2021~2023 代表

【外部資金】

富士通研究所に対して、専門的知識の供与 (zoom で)

(本文は2ページ以内にまとめること)